

けいはんな万博2025記念

新・けいはんな風土記

(敬文舎/2025年4月/2000円)の出版に寄せて

奈良女子大学名誉教授

小路田泰直

yasukojita@gmail.com 090-6554-7951

編集の意図

- 「生命輝く未来社会」のデザインの仕方
想像を逞しくする
直面する社会課題の克服法を考える
1893年のシカゴ万博 世界戦争の危機をどう避けるか
→ 世界宗教会議 ヴィベーカーナンダー 岡倉天心
- EXPO2025の課題
ウクライナ・ガザ＋トランプ 世界平和のために
- けいはんな万博2025にできること
お茶と平和の文化の普及と対話の促進

『新・けいはんな風土記』 で書いたこと

- 「けいはんな」という地域の形成過程
淀川水系の治水・架橋→巨大首都と五畿七道の建設 大久保
→首都圏という特別な地域（日本の縮図：春日と石清水）の形成
→国風文化 長田 小菅
- 戦争と平和の舞台
戦乱の深化 保元・平治の乱 → **応仁の乱**(1467~1477) 田中
平和に向けて **山城国一揆**(1485) → 自治（町・村）
対話の技法 茶の湯 猿楽（能・狂言）
一休宗純 村田珠光→武野紹鷗→千利休 世阿弥→金春禅竹
→ 徳川の平和 18世紀 煎茶の発明 永谷宗円 + 高遊外（売茶翁）

世界平和と日本文化

岡倉天心の闘い

- 「日本の美」の発見 * 『日本美術史』
- 「アジア文明の博物館」論の確立 × 固有文化論
平和（皇統不変）の産物 普遍文化
- 二つの経験
シカゴ万博で活躍したヴィーバーカーナンダーらとの出会い
日露戦争への関与と失望
- 1906年 『茶の本』“The Book of Tea”の出版

西洋人は、日本が平和な文芸にふけていた間は、野蛮国と見なしていたものである。しかるに満州の戦場に大々的殺戮を行ない始めてから文明国と呼んでいる。近ごろ武士道——わが兵士に喜び勇んで身を捨てさせる死の術——について盛んに論評されてきた。しかし茶道にはほとんど注意がひかれていない。この道はわが生の術を多く説いているものであるが。もしわれわれが文明国たるためには、血なまぐさい戦争の名誉によらなければならないとするならば、むしろいつまでも野蛮国に甘んじよう。われわれはわが芸術および理想に対して、しかるべき尊敬が払われる時期が来るのを喜んで待とう。（岡倉天心、一九六一年）

構成

概論 「けいはんな」の歴史 小路田 泰直

- 一、大和王権の誕生
国が生まれる場所／「六合の中心」を求めて
- 二、古代の反乱・仮説―邪馬台国と環日本海世界
邪馬台国論争にことよせて／環日本海世界の实在／武埴安彦と狭穗姫の反乱
- 三、治水の時代
淀川と木津川治水／継体天皇即位の意義
- 四、架橋と巨大首都の建設―聖武と行基
首都の建設と水運／架橋と首都北上
- 五、東大寺二月堂と鎮護国家
二月堂の秘密／白山信仰と水分信仰
- 六、平安京遷都と首都圏の成立―国家の縮図「けいはんな」の成立
平安京遷都と藤原氏の台頭／国の縮図と神々
- 七、戦争と平和―休の苦悩
戦乱の時代／山城国一揆と平和の技法
- 八、茶の時代
煎茶の発明／世界史における茶の時代
- 九、「日本の美」の発見と『茶の本』―世界平和のために
岡倉天心の日本文化論／世界平和を求めて
- 一〇、立憲制下の「けいはんな」
自治から立憲制へ／四民平等とイノベーション
- 一一、大正デモクラシーから第二次大戦後へ
社会運動の高揚／戦後地方自治の役割

各論

京都盆地の古墳築造動向―交通幹線と古墳築造地点の推移に注目して 大久保 徹也
宮都の輪郭―足利健亮の恭仁京プラン及びその後 内田 忠賢
行基と大仏 斉藤 恵美
平安京と仮名文学の誕生 長田 明日華
色で読み解く平安貴族社会 小菅 真奈
応仁の乱について 田中 希生
自由民権運動の背景―天橋義塾と南山義塾 八ヶ代 美佳